

| | | | | | | | |
|--------------------------------------|---|--|-----------|--------------|---------------------|------------------------------------|------------|
| 市町村名 | 沖縄市 | | | | | | |
| 平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】 | | | | | | | |
| 事業番号・事業名 | 8- | 工芸による街づくり事業 | | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-1-(5)-イ | |
| 担当部署名 | 経済文化部 商工振興課 | 事業実施(予定)年度 | 平成24～29年度 | | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興 -3-(2) | |
| 事業内容 | 工芸品の販路拡大をはじめ、工芸従事者の生産意欲の高揚および工芸に対する市民の意識啓発など、工芸産業の振興を図るため、沖縄市工芸フェアの開催等を支援するとともに、工芸産業の全般的な振興に寄与することを目的として、(仮称)沖縄市伝統工芸館の整備に向けた取り組みや伝統工芸(知花焼)の産業化への可能性調査等を実施する。 | | | | | | |
| 実施方法 | 直接実施 委託 補助 負担 その他 () | | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース) | | 24年度 | 24年度(繰越) | 25年度 | 26年度 | 27年度 | |
| | 予算の状況 | (a)当初予算額 | 13,565 | - | 21,385 | | |
| | | (b)予算現額 | 13,096 | - | 14,041 | | |
| | | (c)増減額(b-a) | 469 | - | 7,344 | | |
| | | (d)繰越額 | - | 5,838 | - | | |
| | | A.計(b+d) | 13,096 | 5,838 | 14,041 | | |
| | B.執行済額 | | 7,254 | 5,620 | 14,041 | | |
| | うち交付金充当額 | | 5,802 | 4,496 | 11,232 | | |
| | 次年度繰越額 | | 5,838 | 0 | 0 | | |
| | 執行率(%) (B/A) | | 55.4% | 96.3% | 100.0% | | |
| 予算の状況の説明 | | 当初計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | H25活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | 24年度 | 25年度 | 26年度(7-) | 27年度 | |
| | 県外での出展 沖縄市工芸フェア開催 | 目標 | () | (1回 1回) | () | () | |
| | | 実績 | | 1回 1回 | | | |
| | 伝統工芸(知花焼)産業化可能性調査 | 目標 | () | (調査の実施) | () | () | |
| | | 実績 | | 調査の実施及び報告書作成 | | | |
| 達成状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・渋谷ヒカリエにて県外展示販売会を行った。 ・プラザハウスにて工芸フェアを開催した。 ・知花焼産業化可能性調査及び報告書を作成した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | H25成果目標(指標) | | 基準値(23年度) | 24年度 | 25年度 | 26年度(7-) | 目標値(28年度) |
| | 沖縄市工芸フェア来場者数 県内外出展業者数 | 目標 | () | () | (20,000人 74店舗) | () | () |
| | | 実績 | | | 18,736人 67店舗 | | |
| | 伝統工芸(知花焼)産業化可能性調査 | 目標 | () | () | (調査の実施) | () | () |
| | | 実績 | | | 調査の実施及び報告書作成 | | |
| | 【参考指標】 沖縄市工芸フェア売上額(千円) | | 目標 | () | (15,000) | (12,000) | (12,000) |
| 進捗状況説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・工芸フェアにおいて来場者目標20,000人出店業者数74店舗としていたが、開催期間の減少(5日間→4日間)や出展業者数の減少等により来場者数18,736人、出店業者数67店舗、売上額が11,745,852円となり、目標には僅かに届かなかった。 ・平成23年度の工芸フェアの売上額が4日間で14,346,756円となったため、平成24年度は5日間で15,000千円を目標としたが、実績は13,118,970円となった。来場者数が平成24年度で24,436人であったことから一人当たりの売上単価は536円となる。平成25年度は4日間の開催となるため、前年度実績を考慮し、一人当たり単価600円で20,000人の来場者を目指し、平成25年度は12,000千円を売り上げ目標とした。平成28年度までには売上額を13,000千円としたい。 ・知花焼産業化については報告書作成やシンポジウムを開催することによって、市民に対して認知度及び理解度を高めることができた。 | | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | ・沖縄市工芸フェアの開催や市工芸品のアンテナショップ「コザ工芸館ふんどろ」の開設等によって、市内工芸品の認知度向上に一定の成果が得られているものの、中には市民の認知度が低い工芸品もあり、更なる普及・PRが必要となっている。 | ・工芸フェアの広報及び宣伝に力を入れる。出展業者や実行委員会と連携しながら魅力ある工芸フェアを開催することによって来場者数を増やす。駐車場対策については、引き続きシャトルバスを運行するとともに、周知活動に努める。 |
| | ・工芸フェアの来場者について、当初20,000人を目標としていたが、期間の縮小や出展業者数の減少、駐車場不足(シャトルバス運行の周知不足)が主な要因となり、目標値を達成することができなかった。 | ・「コザ工芸館ふんどろ」を市工芸品のアンテナショップとしてDMや情報発信媒体を有効活用し、認知度及び利用客を増やしていく。また、「コザ工芸館ふんどろ」の設置場所の移転も含めた検討も必要である。 |
| | ・市工芸品のアンテナショップ「コザ工芸館ふんどろ」の来場者数が伸び悩んでいる状況がある。 | |

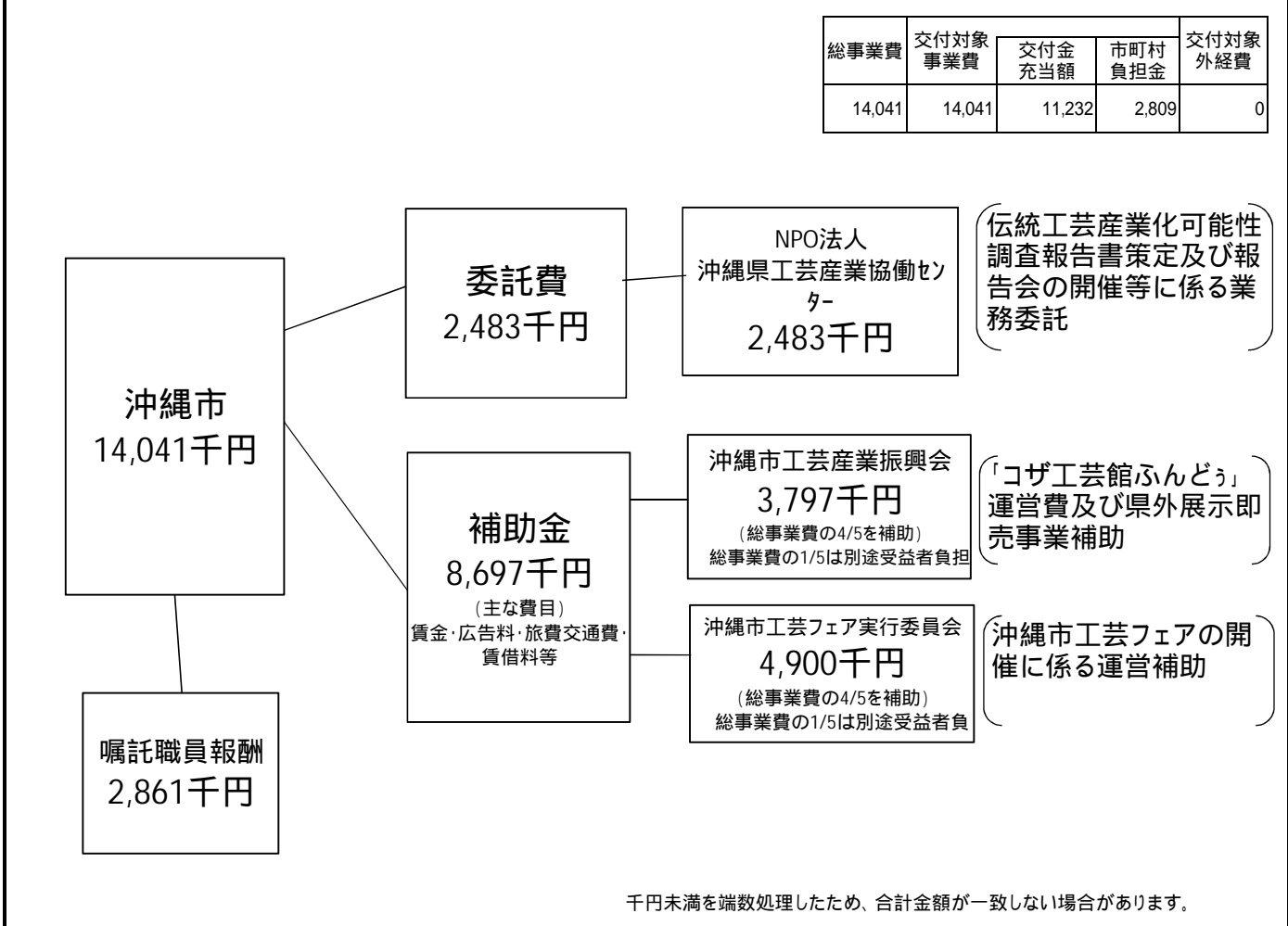
今後の取り組み方針

・市工芸家の新規開拓を含め、既存の作風や概念に捉われず、時代のニーズに適応した作品作りをしながら工芸の価値や希少性を高めていく。

・工芸フェアは各工芸事業所で生産される多彩な商品が一同に出展されることにより、一般消費者が工芸品を鑑賞しやすくなり、買い求めやすくなる。それにより工芸に対する一般消費者の意識を高めることができ、工芸フェアの売上が工芸家の生産意欲の高揚につなげることができるため、28年度での売上げ額目標達成を目指したい。また、駐車場不足が来場者数に影響を与えるため、シャトルバス運行の周知等、広報活動等を効率的に行い、集客を図っていく。

・「コザ工芸館ふんどろ」の認知度向上や利用客の増加に向け、沖縄市工芸産業振興会と連携し周知方法や設置場所の検討など対応策を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



| 資金の流れ、費目・使途の点検評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|------------------|----|--------------------------------|--|
| | | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○補助事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上で、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 補助金については、総事業費の4/5を補助しており、1/5は受益者負担としていることから、受益者との負担関係は妥当であると考えます。 |
| | | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |
| | | | |